

スーパーエンバイロメントハイスクール研究開発事業

1. 事業の概要

廃棄物のリサイクル技術の研究・開発など環境教育を重点的に行う学校をスーパーエンバイロメントハイスクールに指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、課題に気づき、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図るとともに、環境教育に関する教材を開発しています。

2. 研究開発実施校

○東岡山工業高等学校（令和6年度～令和8年度）

本来なら廃棄物となる養殖飼育水を循環活用しながら植物を育てる「アクアポニックス（魚の排泄物に由来する窒素やリン酸を、植物の成長に利用する循環型農法）」の研究に取り組み、工業高校生が工業技術を駆使して生物を育てるという、新たな分野へのチャレンジ精神を育みます。

令和6年度は、設備の製作や新規養殖槽の立ち上げを行い、化学分析による水質管理を行いながら魚の飼育に取り組みました。成長したメバルは、12月に実際に30尾を飲食店へ出荷し、「匠海メバル」として提供されました。また、他県の水産高校と交流学习を行ったり、各種発表大会で取組の成果を発表したりしました。令和7年度は校内5つの専門科と協力して、設備の大型化に取り組みます。



○鴨方高等学校（令和6年度～令和8年度）

環境に対する先進的な取組を行う県内企業、大学等への訪問や、講師を招いての講演会を通して、生徒のSDGsへの興味や探究心を一層向上させ、循環型社会を構築・維持・発展させていく上で必要なことや解決すべき現状の課題について自ら検証し、具体的方策を計画、実行できる資質能力を養います。

令和6年度は、SDGsに先進的に取り組む企業等を訪問し、その取組を間近で見聞したり、体験したりする中で、持続可能な社会を構築するための具体的方策についてイメージすることができました。特に食品ロスに関しての見聞を深め、そこでの気づきから、自分たちができる実践的取組や、地域活性化に向けた方策を提案、発表を行い、企業の方から助言をいただきました。令和7年度は、4系列が得意を生かし、地域で「マルシェ」を行います。実施に向けて、地域の方と協力しながら探究活動を進めていきます。

